

- 第1回 自然共生サイト認定
(2025年9月)



石川河川公園自然ゾーン 活動概要 全6ページ

1. 石川河川公園「自然ゾーン」の取組み
2. 「自然環境保全・活用マニュアル」作成の経緯
3. カヤネズミ保護草地の維持管理方法・実績
4. ミゾコウジュ自生地 of 維持管理方法・実績
5. タコノアシ、カワチシャの維持管理方法・実績
6. 神社と連携した取組み/自動撮影カメラ調査

石川河川公園「自然ゾーン」の取組み

石川河川公園の自然ゾーンでは、希少種の保護と環境保全を目的とした多様な取り組みが行われています。これらの活動は、地域の生態系を守り、次世代へと継承していくための重要なステップです。長年にわたり、専門家や市民団体と協力しながら実施してきた保護と管理の手法をまとめた「自然環境保全・活用マニュアル」は、希少種の保護や管理に対して同じ課題を持つ実践者に向けて、園外にも公開しています。

希少種保護のマニュアル



カヤネズミ



- ・営巣地の保全
- ・営巣調査
- ・採餌地づくり

タコノアシ



- ・自生地の環境改善
- ・移植と系統保存
- ・生育調査

ミゾコウジュ



- ・自生地の保全
- ・系統保存地の管理
- ・生育調査

カワヂシャ



- ・移植と系統保存
- ・生育地の分布調査
- ・生育状況の確認

その他の取組み

神社と連携した取組み

- ・地域の伝統行事の継続支援
- ・神社との共同オギ草地づくり

自動撮影カメラによる調査

- ・地域の生態系の状態把握
- ・生息状況の把握および保全

自然ゾーン 整備概要 MAP



本マニュアルは園内で確認されている希少種の基礎情報、生育・生息地の管理方法、観察データ、新たな取り組み等を収録し、毎年更新しているものです。

マニュアル作成の経緯

希少種保護の課題

- ・保護の手法が確立されていない
- ・希少種に詳しい人材の不足
- ・指定管理者、担当者変更時の継承

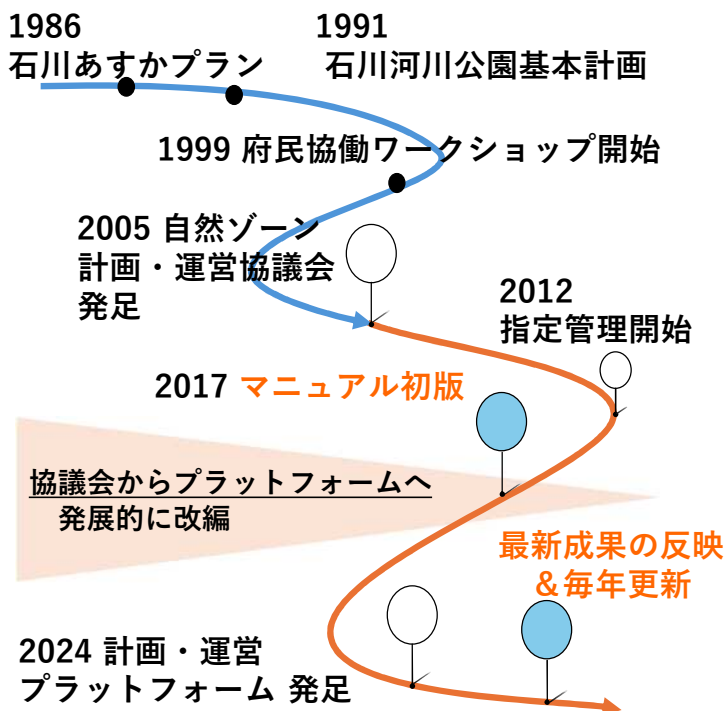
- ・データと管理方法のマニュアルの必要性
- ・毎年更新して最新情報を収録する重要性

解決策の保存と提示

マニュアル作成

- ・自然ゾーン計画・運営プラットフォームが監修・発行
- ・公園外部へも公開し、広く活用されることを目指した作成

これまでのあゆみ



マニュアルの全体像

石川河川公園
20年以上の
実績と成果を収録

I 希少種の生息・生育地の管理

- ◆カヤネズミ◆ミゾコウジュ◆タコノアシ
- ◆新しい生育・生息地づくり

1. 基礎情報
2. 生育・生息地の管理
3. 生育・生息地の拡大

II 自然ゾーンの管理運営に関する引継ぎ事項

1. 自然ゾーンの管理目標
2. 自然ゾーンの整備概要
3. 管理・整備の課題
4. 自然ゾーン計画・運営プラットフォーム
5. 多様な主体の参加による管理運営

III 生きもの・活動・更新などの記録、関連資料

1. 自然ゾーンの調査ほか 関連資料
2. 自然ゾーン関連活動一覧
3. 自然ゾーンの生きもの記録
4. マニュアル更新記録



準絶滅危惧種指定 「大阪府レッドリスト2014」

カヤネズミの基礎情報

カヤネズミは、日本最小のネズミです。

主にオギやススキなどのイネ科植物が繁茂する草地に生息し、その数は年々減少しています。石川河川公園では、オギやセイタカヨシが生い茂る高水敷に営巣しており、これらの草地環境の保全が急務となっています。

カヤネズミの行動圏は狭く、寿命も半年から1年と短いため、生息環境の変化に非常に敏感です。住みかである「カヤ原」は、人間の伝統的な管理（採草や火入れなど）により維持されてきましたが、近年では激減しています。

宮城県以南の本州および四国、九州に生息。主にイネ科の種子や昆虫類をエサとして生活しています。

カヤネズミ



カヤネズミの巣

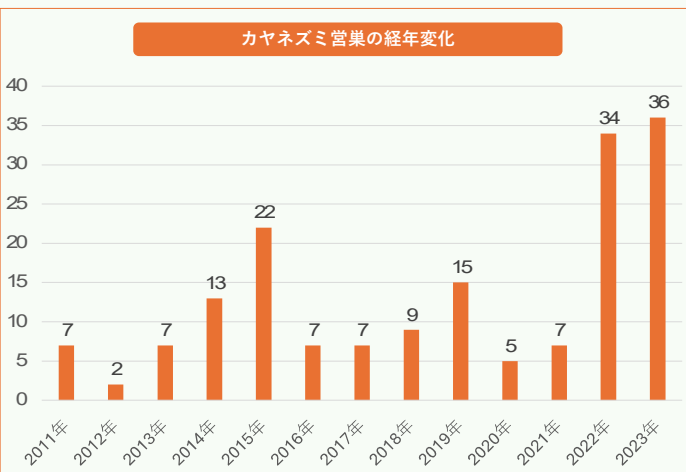
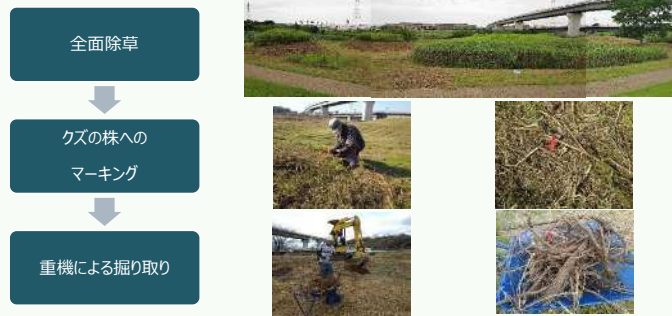


カヤネズミはその場にあるカヤの生葉を細く割いて編み込む形で、地上1～2mの高さに野球ボール大の巣を作ります。

<オギ草地のクズ根茎除去>

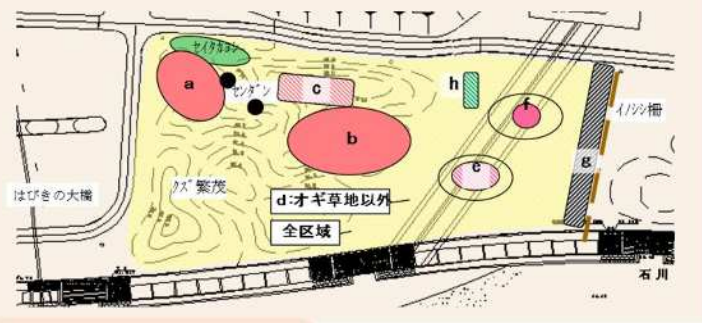
カヤネズミが生息するオギ草地にクズが侵入すると、オギの生育が妨げられるため、除去が必要になります。

クズ根茎除去の手順



※A地区調査結果

管理区域図



保護草地の管理

石川河川公園には、約4,000㎡の草地がカヤネズミの保護区域として管理されています。

この区域内には、オギ群落が存在し、毎年複数のカヤネズミの巣が確認されています。保護草地では、オギの移植や草刈り、クズの根茎除去などの管理が年間スケジュールを基に行われ、カヤネズミの営巣環境を維持しています。

管理区域と管理内容

a, b, c 区域(オギ草地)

既存および移植されたオギ群落。カヤネズミの営巣を保護し、クズの侵入を防止するため、5月から11月の営巣時期には立ち入りを控え、年2回の営巣調査を実施しています。

d 区域(オギ草地以外)

5月から10月初旬にかけて3回の草刈りを実施し、高茎多年草の繁茂を抑制します。

全区域(a~h含む約4,000㎡)

オギの地上部が枯れる12月から2月の冬季に全面除草を行っています。3月からはオギの新芽が動きだすため、立入りの除草などを控えています。

※マニュアルから一部抜粋

カヤネズミ生息地の拡大

1. 既存保護草地の拡大

カヤネズミの生息に適したオギ群落の面積を拡大するため、小丘およびオギ移植地を中心に、他の草地もオギ群落へと変えていく試みが進行中です。カヤネズミの生息環境を広げ、安定した生息地を確保することが目標です。

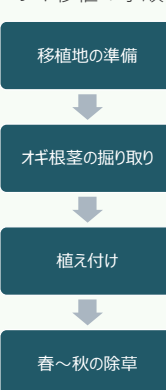
2. 他エリアでのオギ群落の保全・拡大

既存のオギ群落や過去の生息地の管理を強化し、カヤネズミの営巣調査と合わせて、クズや他の多年草の侵入を防ぐための管理が行われています。将来的には広い面積でのオギ移植も視野に入れ、保護区域をさらに広げる計画です。

3. オギ移植

マニュアル中、生息地拡大のためのオギ移植の手順を収録。

オギ移植の手順



移植地の準備



オギ根茎の掘り取り



植え付け



春～秋の除草



準絶滅危惧種指定 「大阪府レッドリスト2014」 「環境省レッドリスト」

ミゾコウジュの基礎情報

ミゾコウジュは、湿った草地や畦、河川敷などの日当たりの良い湿地に生育する越年草です。

茎は四角形で直立し、30～70cmの高さになります。葉の縁は鈍い鋸歯があり、表面には細かいしわと細毛が生えています。花は淡紫色で、5～6月に咲き、花穂は長く伸びて8～10cmになります。

ミゾコウジュ



ミゾコウジュは、日本の主に本州茨城県以西、四国、九州、沖縄に自生しています。

大阪府南河内地区でミゾコウジュの群落が確認されているのは、駒ヶ谷地区の修景池、自然ゾーンD地区の自生地、および富田林市中野町の3箇所のみです。

ミゾコウジュ生育地の管理

生育地の概要と管理内容

・生育地Ⅰ:駒ヶ谷地区 修景池

管理事務所横にある修景池の一角に位置する約2m×5mの生育地で、ミゾコウジュの群落が確認されています。毎年安定して生育が見られ、5月末から6月初めに開花します。

・生育地Ⅱ:自然ゾーンD地区 自生地

開園以前からの自生地で、約30m×7mの窪地に位置しています。1993年からボランティアによる管理が行われていますが、近年は乾燥化や他の草本の侵入によって開花が不安定な状況です。2018年から重機による除草や攪乱が行われ、多数の開花が確認されるなど効果が出ています。

管理内容

生育地Ⅰ:駒ヶ谷地区 修景池の管理

4～6月
ミゾコウジュの茎葉を傷めないように注意しながら、周囲の雑草を手作業で取り除きます。

5～6月
開花の確認と種子の採取を行い、プランターや生育地周辺に播種します。

7～10月
周囲の雑草を手作業で除草し、新たに発芽したミゾコウジュを保護します。

11～2月
冬期のロゼットの間は、上部への機械除草も可能になります。

生育地Ⅱ:自然ゾーンD地区の管理

4～6月
ミゾコウジュの生育確認を行い、生育箇所を特定します。損傷ないように草刈りを行い、必要に応じて攪乱作業を行います。

6月、3月
重機を用いた除草や耕起を行い、草本の根などを取り除きます。

7～10月
ミゾコウジュ以外の草本を刈り取り、クズの根を除去します。

秋～翌年春
ロゼットの確認を行い、少ない場合は石で囲むなどして保護を行います。

ミゾコウジュ生息地の拡大

1. 自生地の環境改善

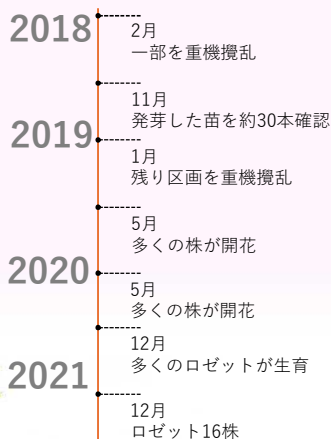
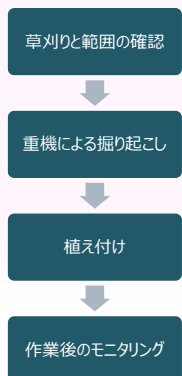
現地の環境変化により、ミゾコウジュの生育適地としての維持が困難になっています。ボランティアの人数減少も見られる中、今後は以下の手法を用いて環境改善を図ります。

1. 重機を入れた本格的な攪乱作業(オギ、クズ、外来草本の根茎除去)
2. 基盤切り下げによる水分条件の改善
3. ミゾコウジュの埋土種子を含む表土の保全と整備後の播き出し
4. 防草およびクズの侵入防止を兼ねた管理用通路の整備

2. 重機による攪乱作業

2018(平成30)、2019(令和1)年に実施した重機による攪乱作業の手順とその後の経過をマニュアルに収録。

重機攪乱の手順



3. プランター播種

万が一、自生地で絶滅した場合に備え、プランターで播種・育成し、ミゾコウジュの系統保存を行っています。5月下旬から6月にかけて種子を採取し、発芽・生育させます。

プランター播種の手順

①花穂から種を採取



- ・花穂が茶色くなった頃に採取する
- ・種子が細かいため、ナイロン袋で受けながら、花穂をしごくように採取する

②種を土に混ぜ プランターに播く



- ・普通の園芸土でよい
- ・土に混ぜることで覆土は必要ない
- ・灌水する時は、種子が流れないように静かに行う

③約1週間後に発芽



- ・約1か月後、密集する場合は間引いて植え替える
 - ・夏期は乾燥しすぎないように注意
- ※採取した種子は、地域個体の交雑を避けるため他では播種しない

準絶滅危惧種指定 「大阪府レッドリスト2014」 「環境省レッドリスト」

タコノアシの基礎情報

タコノアシ（タコノアシ科）は河川敷や湿地に生育する多年草です。

茎は直立し高さ30～70cmに達します。花序の枝はタコの足のように四方に広がり、秋には赤く色づきます。

この植物は攪乱を好み、土中に埋もれていた種子から発芽することが多いため、長期間姿を見せないこともあります。

紅葉するタコノアシ



タコノアシは、秋(11月頃)に赤く色づき、タコの足を思わせる紅葉を見せます。

タコノアシの開花



葉は互生、無毛で縁に鋸葉があります。8月～10月頃に開花時期を迎え、花序が最初渦巻き状になり、数本立ち上がって四方に咲きます。

タコノアシ生育地の管理

生育地の概要と管理内容

・生育地Ⅰ：自然ゾーンB地区 自生地

2023年5月に初めて確認された場所で、カワヂシャも同所に生育しています。

・生育地Ⅱ：駒ヶ谷地区修景池 移植地

2020年5月に自生地から1株を移植し、さらに実生苗約60株を植え付けました。移植株は数年にわたり開花・結実を確認しています。

・生育地Ⅲ：西行うたのみち 低水護岸下

2022年12月に確認された新しい生育地で、自然ゾーン外のエリアですが、周辺の攪乱によって埋土種子が発芽したと考えられます。

管理内容

自生地の除草・かく乱

湿地表面を覆っているマット状の枯草の除去、多年草の引き抜き、小灌木の伐採、タコノアシにかぶさった枯草、周囲の草の除去。

ツルや枯草の除去



侵入防止の実施

四駆車や人の踏み荒らしを防止するための看板設置や侵入防止策の設置。

小灌木の伐採



表面のかく乱



基盤の切り下げおよび水流確保

湿地環境の乾燥化防止のための基盤切り下げや水路からの流入確保。

準絶滅危惧種指定 「大阪府レッドリスト2014」 「環境省レッドリスト」

カワヂシャの基礎情報

カワヂシャ（オオバコ科/ゴマノハグサ科）は、川岸や溝の縁、水田のあぜなどの湿地に生育する一年草です。

花は5～6月に咲き、白色から白紫色になり、淡紫色から淡紅紫色の脈を有します。石川河川公園の複数個所で生育が確認されていますが、その生育地は年ごとに変動します。

カワヂシャ



5月～6月の花期で細長い花序を出して多数の花をつけます。

特定外来植物のオオカワヂシャ、交雑種のホナガカワヂシャも確認されているため、調査時には注意が必要です。

カワヂシャ・オオカワヂシャ・ホナガカワヂシャの違い

カワヂシャ	オオカワヂシャ	ホナガカワヂシャ
葉の縁に明確な鋸葉がある	葉の鋸葉が小さく、全縁に見える	二種の雑種で花序が細長く伸び、カワヂシャとオオカワヂシャの中間的な大きさの花をつける
花は小さく、白色で淡紫色の筋	花はひとまわり大きく、鮮やかな青紫色	
花柄は直線的に斜上する	花柄は伸びるに従って少し湾曲する	

カワヂシャ生育地の管理

生育地の概要と管理内容

管理地の流水や池の水位変動により、生育状況の変化が予測されるため、季節ごとの現況確認と観察記録を行っています。

・生育地Ⅰ：自然ゾーンB地区 ワンド湿地

タコノアシ生育地の外、流水沿いの群生地。

・生育地Ⅱ：自然ゾーンB地区 二つ池

下流側の小池、水辺に比較的多くの生育がみられる。

カワヂシャの移植試験

マニュアル内では2023年よりカワヂシャの育成を目指して行っている移植試験の詳細を収録している。

2023/5 ①鉢への移植



- ・自生地から種子をつけた数株を根を張っている泥土ごと掘り取り、鉢に植え付け

②水辺へ設置



- ・結実後、水に落ちた種子を土へ戻し、流出しないようプランターに植え付け乾燥しない水辺へ設置

③発芽・開花を確認



- ・移植したプランターで3株の発芽、開花を確認。

2023/7

2024/4

神社と連携したオギ草地づくり

石川河川公園では、地域の神社で毎年7月に開催される行事「夏越の祓」に使用される「茅の輪」の材料として、2018年から公園内のオギを提供しています。

良質なオギが入手困難になっている中、伝統行事の継続を支援するための取組みとして始められました。

提供神社と実施実績

提供神社	道明寺八幡宮	萩原神社	廣國神社
	藤井寺市 道明寺	堺市東区 日置荘原寺町	堺市美原区 大保
2018年	D地区	D地区	
2019年	D地区	D地区	
2020年	D地区	D地区	
2021年	D地区	D地区	
2022年	パークゴルフ場西	パークゴルフ場西	
2023年	パークゴルフ場西	パークゴルフ場西	パークゴルフ場西

オギ草地は同じ場所を毎年刈り取ることで衰退が進む可能性があるため、クズの繁茂地の解消も兼ねて、新たなオギ草地の創出に取り組んでいます。

D地区でのオギの回復を待つ間は、パークゴルフ場本流側のオギ草地を刈取地として利用しています。

伝統行事の継続を支援する取組み



草地育成にて神社の協力を要請



新たなオギ草地創出への取組み



実施風景

オギの刈取り



茅の輪づくり



茅の輪(完成品)



自動撮影カメラによる調査

カメラ調査実施の背景

2021年11月にキツネが目撃されていることを受け、大阪府生物多様性センターの協力のもと、駒ヶ谷地区周辺で自動撮影カメラを設置し、野生動物の調査を開始しました。

調査の目的

この調査は、地域の生態系の健康状態を把握し、保全活動に役立てることを目的としています。今後も定期的なモニタリングを続け、野生動物の生息状況を観察していきます。

カメラ設置と自然動物撮影までの沿革

2021	11月 キツネの死体が確認される	
2022	6月 キツネの巣があると思われる近辺(古市スポーツ広場の溝内)にカメラを設置	設置当初の2022年6月にはキツネの巣があると思われる近辺(古市スポーツ広場の溝内)にカメラを設置
	9月 撮影を確認できなかったため、自然ゾーンA地区のフェンスへ移設	↓ 巣が近すぎたことで警戒したのか撮影が確認できなかったため、自然ゾーンA地区のフェンスへ移動した
	9月~10月 ・キジが撮影される	
2023	10月 ・アオサギを撮影 ・ハクビシンを撮影	↓ キジやアオサギ、ハクビシンなどの自然動物を撮影
	10月 アライグマを撮影	
2024	2月 ・キツネを撮影 ・タヌキを撮影	2024年にはキツネ、タヌキなど多数の動物たちの撮影に成功

カメラの設置位置と実際の撮影映像

当初カメラの設置位置(古市スポーツ広場 石川本流側の溝内)



移設カメラの設置位置(自然ゾーンA地区フェンス)



実際に撮影された動物たち

